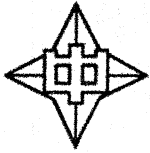


令和5年度さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



南風

第9号

令和5年11月1日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

教員だって勉強する

校長 吉原 誠 士

校長の7年間も含め、私は学校に関わり続けているのにまだまだ知らないことが多いことに驚きます。新たに興味が湧くこともたくさんあって勉強にキリがありません。あと何年関わっても「教育者」を自称するのはおこがましいとも感じられます。娘の葛飾^{かつしかおうい}応為^{へんくさい}が語った「北斎は『子供の時から八十幾つになるまで毎日描いているけど、猫一匹すら描けねえ』と涙を流して嘆いていた」というエピソードがあります。応為はこれに続けて「何事も自分が及ばないと嫌になる時が上達する時だ」と弟子に説き、離れて聞いていた北斎本人が「全くその通り、全くその通り」と応じたとのこと。こうなると私はただか教職経験40年に過ぎない訳で、この先も上達する余地があると信じることができそうです。

現在、最優先事項として頭を占めているのは「学び」の問題です。学校教育の方向性や内容は約10年に一回改訂される「学習指導要領」に示されていて、これまでも「将来を生きる子どもたちに必要なことは『自ら学ぶ』ことである」と述べられていました。ところがここ数年、日本が置かれた状況は、これまでと比較にならない速度で変化し続けています。「与えられるのが当たり前だと考えて待つ」教育から、「自ら学ぶ」姿勢を持ちながら局面を打開できる力を養成する教育への転換が喫緊の重要課題になっているのです。現在、文献を中心に過去の成功の知恵や失敗の反省を学んでいます。また、活きた反省が行えるように、現在直面している問題に全力で立ち向かうように心掛けています。

教育職に携わる自分を鍛えるにあたって、これまでも「可能な限り手間、暇、金をかけよう」と努力してきました。アインシュタインの「過去から学び、今日のために生き、そして未来に希望をもつ。大切なのは、疑問を持つことを止めないことである」(原文; Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow. The important thing is not to stop questioning.)という言葉を知ってからは、益々読書に時間をかけるようになり、校長室が本で埋まっています。不夜城というほどではないにしても退勤が遅くなりがちです。「働き方改革」とは逆にいくように見られがちですが、個性を活かすという観点からは自分自身のやり方に納得しているところです。

本校の教員も日常的に、何をどのように学習させるか下調べをしています。この仕事に就いた以上、様々な方法や機会を捉えて勉強を続けなければなりません。「学び続けられない者に教える資格なし」も私の主張です。実践的なノウハウを交換するために、互いに授業を見ることも意識的に行っています。中堅・ベテラン教員からの学びも大切にしています。それに加えて年に一回、市教委に置かれた指導主事という教科の専門家が、文部科学省の示す最新の動向も含めて学校教育へのアドバイスをしてくれます。過日の機会には、教員の学びの余地と伸びしろが指摘され、励ましがありませんでした。私自身も教室を回り「こうすればよりよくなる点」をたくさん発見できています。与野南中学校、もっと進化しますよ!

合唱コンクールでは学年を超えた生徒同士の学びが見られました。3年生にはこの場を借りて感謝の意を表します。また、11日の土曜公開日には本校の教育についてお話する時間を設けます。